

あきない通信

No.36

新春のごあいさつ



商工会長
池田 ひろし 央



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げますと共に、商工会の運営並びに事業の推進に多大なご支援ご協力を賜り、感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスが第5類となり、行動制限もなくなり経済活動も回復に動き始めました。しかしロシアによるウクライナ

侵攻の長期化や世界的なエネルギー・原材料価格の高騰、急速な円安や人手不足など様々な要因から、企業の経営や家計を圧迫する

など、大変厳しい経済状況が続いております。

こうした中、商工会と致しましては、各種支援金や持続化補助金の申請、融資斡旋の相談業務など、アフターコロナ・ウィズコロナの時代にいち早く適応できるように、会員事業所に寄り添った伴走型支援にも取り組んで参りました。

又、昨年は沖縄県宜野座村と内子町との姉妹町村締結50周年の節目の年であり、11月には沖縄県宜野座村商工会の訪問団に初めてご来町いただき、情報交換や交流を行うことができました。

引き続き本年1月には、単なる姉妹町村の交流だけでなく、新たに経済的な交流を行うことを目標に、内子町商工会訪問団を結成し、先方にも伺うことになりました。この活動が単なる人的交流だけに終わらず、双方にとって実効的

にして参ります。本年も、商工会は地域唯一の経済団体としての使命を果たすべく、

発行・編集：内子町商工会	
あきない通信編集委員会	
会員数	595名 R6.1.1現在
内子地区	356名
五十崎地区	137名
小田地区	102名

本所	
〒791-3301 内子町内子1502	
TEL 0893-44-2166	FAX 44-4936
TEL 0893-43-1500	FAX 44-4764
小田支所	
〒791-3501 内子町小田81	
TEL 0892-52-2144	FAX 52-3256

経営発達支援事業 第二期計画

「経営発達支援計画」とは、商工会が地域のお店や会社が販路開拓や生き残り策を考えて実行することをお手伝いするための「商工会の事業計画」です。内子町商工会では、平成31年（令和元年）に5年の期間で計画しましたが、令和6年3月末を持ってその5年を終了するため、改めて計画を作成しました。その柱となる目標は以下の通りです。

- (1) 小規模事業者に、従来の事業の効率化に伴い、伸長する分野への新しい取組を含めた自立的な経営力強化による事業継続を実現する。
- (2) 県内でも有数の観光及び農産物資源を有する強みを活かして、農商工連携を視野に入れた商品開発・改良による販路拡大及び、来町客への販売機会の増大を推進する。
- (3) 小規模事業者との対話を通じて、個々の課題を設定した上で、地域経済を支える小規模事業者の力を引出し、地域特性を活かした全体での持続的発展の取組へ繋げる。

この目標を達成するため、各種調査及び分析の結果の公開や、来外（宿泊）客へのアンケート調査、経営状況の分析やDX化のお手伝い、事業計画策定後の実施支援や、大都市圏の展示会、輸出プログラムを活用した新たな需要の販路開拓に寄与することなどを計画しています。

各部会活動報告

【商業部会】

■県外視察研修



7月9日(日)～10日(月)、高知県佐川町の町並や帯屋町商店街、ひろめ市場、五台山竹林寺、牧野植物園等を20名の参加者にて視察しました。「佐川」といえば、最近ではNHKテレビ小説「らんま」の舞台で思い出す人も多いため、高知県出身の植物学者である主人公、牧野富太郎博士が生まれ育ち、学んだところです。

どこか我らの内子町を思い出すような旧家が建ち並ぶ中に、ほぼ当時の姿を残して現在も稼働する司牡丹酒造の工場や、牧野博士が学んだ家塾「名教館」なども残されており、文教のまちとしての側面もあります。牧野博士だけでなく、元宮内大臣田中光顕公をはじめとする維新の志士など、著名な政治家・学者たちが誕生する素地を持っていました。歩いているだけで、

当時の盛況さや町民の暮らしに思いを馳せることができます。参加者からは、「テレビで話題の地でもありタイムリーだった」「勉強にもなりグルメリュニケーションも図れ、楽しかった」「近くでも行ったことのない場所に来て良かった」等、感想をいただきました。



■親睦レクバレー大会

9月3日(日)、内子東自治センター体育館にて、恒例の親睦レクバレー大会を開催しました。計6チーム、57名の参加で、好プレー・珍プレーが続出。絶えず、笑顔でありながらも、真剣なプレーにより試合が進みました。



結果は、優勝…うちこ園まごころチーム、準優勝…ひめぎん、3位…うちこ園思いやりチーム、4位…空豆と

【工業部会】

■一日視察研修

10月19日(木)、7名の参加者で高知県宇佐町の鯉節製造「竹内商店」と、土佐市の木毛(もくめん)製造「戸田商行」を視察しました。



ゆかいな仲間たち。バレーの後の親睦会も大変盛り上がりました。

鯉(かつお)といえば、愛媛に住んでいる私たちは高知県を想像しますが、鯉節になると全国的には1%未満、会社の数ではわずか3社ということ。その中でも「本枯節」を製造しているのは同社のみで、伝統食品を歴史に残し続けています。

この高知の地で、同様に伝統を守り続けているのが木毛製造の「戸田商行」です。木毛といえば、高級フルーツ等の緩衝材として定番のようなイメージもあるため、国内で生産を続けている会社がこの「戸田商行」しか残っていない、ということに驚きです。両社では製造工程から歴史、会社の現状な

などを詳細にご説明いただき、参加者からは「手作業の工程が多く、人手の確保が常に大変そう」「是非生き残ってほしい」「時代遅れが最先端になっている」「付加価値が高いので単価アップ等で持続していった欲しい」などの感想が寄せられました。



■経営拡大と効率化セミナー

(株)城川ファクトリーで代表取締役を務める村田博史氏を講師に迎え、業務全般においてITを活用する部分と、人でなければできない分野を明確に分けることで、業務の効率化と経営の拡大を同時進行させている状況等をお話いただきました。村田氏は東京都出身。IT業界で活躍した後、集落応援隊(現地域おこし協力隊)として城川へ。「稼ぐ地方」を作るため、食品加工やコンサルタ



ントとして活躍中で、まさにそれを実現中です。28名の参加者からは、「どのように入IT化を進めたいか足がかりが出来た気がする」「システム導入の難点、コツがよく理解できた。論理的で取り組みやすい」など、様々なご感想・ご意見をいただきました。

【建設業部会】

■県外視察研修

10月14日(土)～15日(日)、大分県方面への視察研修を、10名の参加者にて実施いたしました。一日目の視察では、四国他県に遅れをとり県内には未だ無い本格的な水族館の視察を目的として大分マリンパレス水族館「うみたまご」へ。1964年に開館して、2004年にリニューアルしてから20年近く経過していますが、「行ってよかった動物園&水族館」や「動物テーマパークランキング」では常に上位にランクされるなど、高い人気を継続しています。末永く愛される施設にするためには、建物の先進性や建築技術だけではない魅力



が必要等、意見交換ができました。二日目は八幡総本宮の宇佐神宮へ。建築関係の技術として注目するのは、本殿を横から見ると屋根がエム字に見える「八幡造り」です。古い神社形式を今に伝える貴重な建築物として、国宝に指定されています。現在、建設業界は人手不足から機械化・ICT化が加速していますが、「人の手」による技術や伝統、知識は、必ず必要になる場面があります。経営や現場の効率化を図りながらも、いかにそれらを残していくかを課題として再認識しました。

■ボランティア事業

10月27日(金)、21人の部会員に内子町建設デザイン課職員の協力も得ながら、知清河原付近のゴミ拾い、雑草木々の撤去、清掃等を実施しました。参加者の尽力により、夏の台風等の増水によって流れ着いた木々や、不要に大きくなった雑草等を一掃すること

ができました。



ができました。

■小田川シクロクロスinうちこ

11月19日(日)、小田川河川敷豊秋河原特設コースで、瀬戸内シクロクロスシリーズ2023-2024の第1戦が開催されました。大会は、キッズ2クラス、ジュニア、レディース、男子は初級から上級までの3クラス、そして耐久の計8つのカテゴリーで実施されました。愛媛県勢、当町勢も大いに活躍。



本大会は県・町が推進する自転車新文化の普及・啓発を図り、観光客誘致、交流人口増大を図ることも目的としています。当部会は、前日のコース設置搬入設置、当日の地域産品の物販等で大会運営をサポートさせていただきました。

○昨年5月、新型コロナウイルスが5類に変更されて以後、部会活動も以前の活気を取り戻しました。年度末までに、商業部会では料理講習会、建設部会では研修会も予定しています。皆様のご参加をお待ちしております！

10月28日(土)～29日(日) 和紙創作展 界限づくり委員会

今年で19回を迎える「和紙創作展」。昨年から会場が「アートギャラリー天神館」になり、それまでの2か所に分けての展示から、1か所での展示・開催ができるようになりました。

今年の新しい試みとして、「モノづくりの中で研究実験したことを発表し、第三者のご意見をもらう」という課題に取り組みました。出展者は、それまでも毎年違った新しい試みをしてきていたが、来場者に伝わりにくかったのではないかと反省のもと、文字に表すことで、評価やご意見を伺い、モノづくりの視線や発想の転換、また共感、同意を得るなど、さらなる一歩を踏み出すことにつながることを期待しました。

和紙創作展を始めたのは2003年。当時の愛媛新聞に「江戸時代から伝わる五十崎の伝統工芸品『大洲和紙』を再び盛り立てようと、同町商工会のメンバーが付加価値をつけた和紙の加工づくりを始めた」と紹介されました。地域に根差した産業として和紙の復興を目指した20年間。コロナ

過去の2年間は休会しましたが、開催を続けることができています。2010年、フランスの技法のギルディングを習得した(株)五十崎社中さんに参加いただいたことで、作品の幅も広がってきています。



久々のご対面ガボー氏家族と亀岡氏、五十崎社中の河内氏(右)

今年、ギルディング技法の師匠であるガボー・ウルヴィツキ氏とご家族がフランスから駆けつけてくださったことや、偶然立ち寄ったアメリカのジャズマンと、メンバーの大森氏による和紙のベースと和紙の太鼓での即興演奏が実現したりと、楽しいサプライズもありました。



和ベースを弾く謎のアメリカ人と和紙太鼓をたたく大森陸雄氏

今後、和紙産業を絶やさず、支援が出来ることを願っています。



会場風景

出展者 ● 折り紙工房千鶴・(株)五十崎社中・菓子工房・自然派工房なるた・大森陸雄・多羅富来和紙(大西満王 新居浜・愛媛大学社会共創学部芭蕉和紙研究チーム) 協力 ● 木管楽器演奏河内正剛チーム



ガボー氏(左)とご家族と、当時の商工会副会長亀岡氏(右)対面

11月16日(木)、沖繩県宜野座村商工会の役員の方々が内子町に見えられ、交流研修を開催しました。



【宜野座村商工会との交流研修】

昭和48年、旧五十崎町と宜野座村との間で「姉妹町村縁組み締結書」が交わされて以来、3町合併後も青少年を中心に両町村の住民が互いの町を訪問し友好を深めてきましたが、この度、商工会単独での交流事業が初めて実現しました。宜野座村の皆様には、内子町の「まち歩き」や「道の駅から」での研修・視察等いただいた後、情報交換のため本所へご来館いただきました。さらに友好を深めるための親睦交流会では、風土・気候や伝統の異なる両町村の理解が進み、互いの生産物や特産品の有効活用など、商業レベルでの連携の可能性を探る意見が盛んに飛び交いました。1月には、その実現及び推進のため、本会役員も同村を訪問する予定としています。

国の教育ローン申込 検索 or ↓より

【国の教育ローンのご案内】 国の教育ローンは、全ての学校に進学するお子様をお持ちのご家庭を対象とした、公的な融資制度です。ご用意いただく資料等もあるため、余裕を持って資金をご準備いただけるよう、必要時期の2〜3カ月前のお申込みをおすすめします。 ▼ご融資額：お子様一人につき(原則)350万円(自宅外通学等)450万円 ▼利率：年2.5%(固定) ▼返済期間：18年以内 ▼使いみち：学校納付金(入学金、授業料、受験料、交通費等)、自宅外通学に必要な居住費用(敷金、家賃等)、教科書代、学生の国民年金保険料他 ご相談は、教育ローンコールセンターまで。 <教育ローンコールセンター> 電話0570・008656 03-53321-8656 月々金 午前9時〜午後7時 ★申込について 郵送も可能ですが、24時間365日受付しているインターネットでの申込が便利です。

青年部だより

今年の5月に新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、約3年ぶりに行動制限が解除されました。世間では中止されていた催しなどが再開され、賑わいを見せる中で、我々青年部も地域の催し事に参加させて頂き、多くの活動を再開することが出来ました。その中で青年部が主催となつて盛り上げた2つの事業をご紹介します。

まずは「うちこ夏祭り」。7月15日(土)、内子商店街にて内子支部が中心となり開催。昼間は人気のテレビ番組「逃走中」を模し、商店街内で小学生を対象に開催。青年部は「ハンター」として駆け回り、夜はくじ引きやスーパードールすくいなどの出店と知清河原から上がる花火の運営。多忙な一日となりましたが、町内外問わず多くの方に参加して頂き、笑顔に包まれた商店街。2000発の花火に照らされた内子の夜空



は、皆さんの心に刻まれたのではないのでしょうか。



2つ目は、11月18日から1月中旬まで開催された小田支部の「スバル・イルミネーション」。地域を盛り上げ、冬の訪れと共に暖かい雰囲気を提供するために始まりました。今回で24回目を迎え、約2万球の光が小田地区を照らします。設置当日は、雹が降るなど悪天候でしたが、多くの部員や地域の方々のご協力により無事設置でき予定通り点灯出来ました。家族、友人と共に楽しめるひとときを演出し、皆様に日常から抜け出した特別な瞬間をお楽しみいただけたなら幸いです。毎年違う顔を見せる「スバル・イルミネーション」は来年どんな



顔を見せてくれるのでしょうか。ぜひ、暖かい光が周りを包み込むこの場所を共有してみてください。以上簡単ではございますが、事業紹介を致しました。来年は新たな活動を企画していますので、これからも青年部をよろしくお願い致します。

最後になりますが、これらの活動は地域の皆様のご協力とご理解があつて成り立っております。心から感謝申し上げます。

(青年部長 中田 貴博)

女性部だより

【福岡県女性部連合会訪問】

福岡県女性部連合会に部員増強のコツを聞いてみようということ、愛媛県から14名の女性部長が11月の末福岡県を訪問しました。



福岡県が全国大会で2年連続して表彰されているということもあり、研修先が福岡になったようです。とても明るくお元気の会長と副

会長4名に迎えられ、町の紹介等しながら悩みを相談いたしました。どの商工会も、女性部は高齢化もあり減る一方ですが、福岡に行つて会長のお話を伺うと、出来ることはまだまだありそうだと感じました。

まずは、商工会理事の皆様への配偶者へ加入していただくこと、新規のお店には必ず入部届を持って訪問すること等、嫌がられても根気よく女性部のことを説明し、縦の繋がりがただでなく横にもどんどん広がつてお店にもメリットがあると力説しましょうとのことでした。この研修が、無駄にならないよう商工会にもお力を貸していただきながら部員が1人でも2人でも増えて、楽しい女性部活動ができるよう心掛けたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いたします。



(女性部長 細川 美穂子)

日本の伝統文化を世界に発信

会員企業紹介

(株)天神産紙工場
(株)五十崎社中

五十崎と言えば県の無形文化財に指定される大凧合戦。

その凧に欠かせないのが伝統の大洲和紙です。

大洲和紙は、大凧の他、書道用紙、障子紙、表装用紙等に用いられます。

今回は、「天神産紙」専務取締役兼「五十崎社中」代表を務められる齋藤宏之さんにお話を伺いました。

天神産紙工場の創業は大正初期。

中でも書道用紙は質・量ともに国内最高水準で、往時には、手漉き和紙工場として日本一の規模を誇りました。しかし、高度成長期を境に、汎用紙の需要は



齋藤宏之さん



天神産紙工場

和紙から、大量生産される安価な洋紙へと移行。

旧態依然の和紙工場は一軒、また一軒と姿を消していき、まさに風前の灯といった状況に陥ります。神奈川生まれの齋藤さんは、大学卒業後IT企業に就職。

一見すると、伝統文化とは真逆の道歩んでいましたが、縁あって触れた和紙に魅せられ、2008年「五十崎社中」をイターン起業しました。

「高付加価値製品の開発・製造・販売により利益を創出し、五十崎和紙の新旧用途、和紙産業の活性化を広く国内外にアピールすることが不可欠。」と齋藤さんは語ります。パリの壁紙デザイナー「ガボール・ウルヴィツキー」氏とのコラボも、その一環。

金属箔を使うギルディングと呼ばれる手法により、五十崎和紙は豪華絢爛な壁紙へと変貌を遂げます。

互いの伝統文化が国境を超えて融合し、新たな価値と、新たな市場が創出されたのです。伝統文化を継承する意義は、今



ガボール・ウルヴィツキー氏(デザイナー)

更言うまでもありません。

しかしそれは、単にノスタルジックな想いだけでは叶えようがないでしょう。

「強いモノ、賢いモノが生き残るのではない。唯一環境変化に対応できるモノだけが生き残る」

古き良き伝統を守りながら、環境変化に合わせて、戦略的に変化・対応し続ける、齋藤さんのアート&クラフトの取り組みは、まさしくダーウィン「進化論」の実践そのものでした。

五十崎社中の製品は、「オーベルジュ内子」、「スターボックス松山市駅前店」、「道後温泉「飛鳥乃湯」」等でも見ることが出来ます。皆さんもその目で、古くて新しい伝統のカタチを見てみませんか。



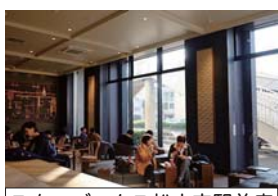
道後温泉別館飛鳥乃湯



オーベルジュ内子



ホテル内装



スターボックス松山市駅前店

五十崎社中ショップ/ショールームのご案内

天神産紙工場内の展示スペースに五十崎社中ショップ兼ショールームを開設しています。壁紙などのインテリア装飾商品、ギルディング和紙を使った人気商品やここでしか買えない商品も多数揃えております。お気軽にお立ち寄りください。

営業時間：午前9時～午後5時
住 所：〒795-0303 内子町平岡甲1240-1 天神産紙工場内
TEL/FAX：0893-44-4403
メー ル：ikazakishachu@space.ocn.ne.jp



伝統的な「流し漉き」の技法で和紙を生産しています。

年男・年女

年男・年女の皆様に、令和6年の抱負をお聞きしました。

昭和39年生



西田 亮治
西田クリーニング
洗濯業 (小田)

独立してこの仕事を始めて40年が経ちました。皆様に支えられてやってこれました。感謝です。



内藤 昌典
内藤鋼業
木材加工機械販売
バイオマス発電 (五十崎)

昨年火災に見舞われた小田のペレット工場の復旧が今年の喫緊の課題です。行政と協力しながら脱炭素指定都市認定と、電気代ゼロの内子町を目指し邁進します！

昭和51年生



デルクセン・インス
ツムシバルツェン
カイライ
飲食 (内子)

千支の習慣は日本に興味を持つ

てから知ったのですが、自分が龍(ドラゴン)年と知った時は、かつこよくて気に入りました。コロナ禍も皆様に支えられ、昨年は無事開店10周年を迎えることができました。これからもドイツの美味しい料理を楽しんで頂けるよう頑張っていきます。



宮瀬 信治
みやせスポーツ
スポーツ用品小売 (内子)

スポーツを通じて、お客様に笑顔になって頂けるように。小さなお店ですが、日々営業させて頂いております。今年は年男ということもあり、千支の龍のように力強く活躍できればと思います。



菊地 真紀
モイステイナ
内子サロン
化粧品・エステ (内子)

健康的な素肌づくり、心と身体は健康は欠かせません。スキンケアと併せて、漢方よもぎ蒸しやヨガレッスンなど、リフレッシュサロンとして今年もアップグレードしていきます。ヨガとZUMBA(ズンバ)、なんとか続けていきます。年女！体力と筋力をつけていきます。

いです。



宮部 誠
ミヤベラボラトリー
歯科技工士
ラジコンサーキット
ラジコン販売 (五十崎)

歯科技工士人生25年目にして新たにラジコンサーキット経営を始めました。日々出会いがありとても楽しく毎日過ごしています。歯科技工士とラジコンをより多くの人に知っていただき、「毎日ワクワク過ごす！」



山本 博幸
山本建具
建具製造 (五十崎)

龍騰虎躍の精神で、仕事においても新たな高みを目指し、活動的に行動します。



宮崎 昌史
稲田石材
石材加工 (内子)

今年から長男も一緒に仕事を手伝ってくれるようになりました。妻も私も、3人ともに辰年なのでちよーどいくらいの飛躍の年になればいいなと思っています。健康

昭和63年生



嶋屋 麻南美
ほぐし屋Hoo
リラクゼーション
サロン (内子)

お店をオープンして1年目です。ご縁を大切に、お客様に笑顔になつて頂けるお店にしたいです。また12年後も年女で紹介してもらえますように頑張ります！

康にも気をつけて頑張りたいと思います。



辰年(たつどし)は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年だといわれています。

また、たつ(竜、龍)は十二支の中で唯一空想上の生き物で、権力や隆盛の象徴であることから、出世や権力に大きく関わる年といわれています。



有限会社ふじブドウ園

(観光果樹園)

代表取締役 藤瀨 利通

〒791-3321 内子町川中2366

TEL0893-25-4281 FAX0893-45-0667

定休日/水曜日 営業時間/9時～14時

収容人員/1,000人、

大型バス10台普通自動車300台

土と心を耕して。深みある味わいを求めて、ブドウづくり60年。



ENDUP 合同会社

(きくらげ製造・販売業)

代表社員 白方 啓吉

〒791-3512 内子町中田渡277-2

TEL090-9050-0653 FAX089-976-5875

定休日/不定休

令和2年創業。今年の春から中田渡の小田川沿いで榊和光ワールドさんと協力して、きくらげを生産しています。地元に着しながら成長していきたいと思ひます。

新会員の紹介

新しく入会された新会員をご紹介します。

GビズID(プライム)を取得しましょう！

GビズIDとは、ひとつのアカウントでさまざまな行政サービスにログインできる法人・個人事業主向けの共通認証サービスです。国では、DX推進のため、これまで郵送等で可能だった補助金等申請を含む手続きを、オンライン限定にする動きを強めています。

内子町商工会会員の皆様にもたくさんご利用いただいている「**小規模事業者持続化補助金**」についても、今年の10月からの申請分より、郵送での申込は減点対象となる見込みです。

よくわからなくても、とりあえず取得しておく！是非、会員の皆様にはお願いいたします。

マイナンバーカードをお持ちの個人事業主：パソコンとメールアドレス、スマホで即時発行。

マイナンバーカードのない個人事業主及び法人：印鑑証明書と登録印、パソコンとスマホによって必要書類を作成・郵送後、事務局からのメールにより本登録にて発行。



お申込みはこちらから➡ <https://gbiz-id.go.jp/top/>

編集後記

先日片付けをしていると、懐かしいものが出てきた。それは、20年以上前に愛媛新聞に投稿したときの原稿である。内容の一部で、旧小田町に人口が4,000人ちよつとしかないことを憂いていた。でも、今はその半分以下。じゃあ、20年後は？

それだけではない。最近の気候変動による山林火災の多かつたこと。遠く海外のカナダやハワイからの映像は、まるで特撮さながら。少ないと言われる日本でも、すぐお隣の大洲市で起こつた昨年11月の山林火災は、鎮火に一週間もかかつた。地球温暖化に加えて、少雨傾向が原因としてあるのでは？とのこと。

そして、世界各地での紛争。テレビからの映像は、不謹慎ながらまるで映画のワンシーンを彷彿させた。だが、それは現実にかけていること。泣きじゃくりながら、重い袋を引きずつて歩く幼い子の映像は、いつまでも心から離れない。

令和2年から世界を悩ませ続けているコロナウイルスによって、世の中・世界は一変した。昨年の5月から5類に引き下げられたものの、ウィズコロナとして一生付き合つていくことに変わりはなく。その他にも、目の前には数えきれないほどの困難が立ちふさがつていく。

そんな中でも、私たちは生きていく。現実から目を背けることなく生きていかねばならない。新しい年が明けた。自分にできることを精一杯、と誓つた。

(悦子)